



# 大杉谷国有林からの手紙



40通目

～雨の中でもたくましく生きる

野鳥「キセキレイ」～

6月に突入してからじめじめとした日が多くなってきました。大杉谷でも5月の中旬から梅雨を感じる気候となり、雨の大杉谷を歩く機会が多くなってきています。

そこで、今回の大杉谷の手紙では「雨の大杉谷」について、雨の中でもたくましく生きる野鳥「キセキレイ」についてご紹介したいと思います。

## (1) 雨の大杉谷について

大杉谷国有林を含む大台ヶ原は日本有数の多雨地帯として有名で、九州の屋久島に匹敵するほどの雨量を誇っており、年間降水量は約4500mmを越えています。

また雨量の観測記録中で最大の年間降水量は、大正9年（1920年）に観測された8214mmでありその雨量の多さがうかがえます。

そのため地元の言い伝えで「弁当忘れても傘忘れるな」との言葉が残っており、大杉谷と雨はきっても切れない関係にあるようです。



写真1 水かさの増した堂倉谷

写真1は、雨の日の大杉谷国有林の堂倉谷を撮影した写真です。通常時の水かさの約3倍近い水が轟音を立てながら流れていきます。この水は数多の溪流や滝を通ることにより力が削がれゆっくりとした流れとなり、河川を經由して海に戻っていきます。長年過酷な風雨にさらされているため、山自体が雨に慣れているようです。



写真2 蜘蛛の巣と水滴

## (2) 雨の日ならではの風景

別の日に大杉谷国有林を歩いていると、写真2のような蜘蛛の巣を見つけました。巣に雨粒が付き、綺麗な姿をしていました。

この天然のアクセサリーは、雨の日しか見られないため、雨でどんよりの気分の中でも、見つけるととてもうれしい気分になります。山に限らず町中でも見つけることができるので、雨の日以外に出る際は探してみてくださいね。

### (3)キセキレイ

雨の日に林道を車で走行していると、車の前にちょこんと現れて約500mほど一緒に飛びながら移動する黄色い鳥を良く見かけます。

この子の名前はキセキレイ (*Motacilla cinerea*) と言って、「チチン、チチン」という鳴き声と長い尾羽をぴよこぴよこ振る姿が印象的な鶺鴒 (セキレイ) の一種です。全長は20cmほどで主に水辺に住む虫などを食べ、他のセキレイとは違い山間部の溪流沿いに生息しています。

大杉谷国有林は大小様々な溪流があるため、キセキレイにとっては絶好の生息地帯です。また林道を走行したときに、1日に幼鳥を含め20羽を見たこともあることから、大規模な繁殖場所としても機能しているようです。

キセキレイという名前の由来は、体が黄色い色をしている事から来ており、鶺鴒 (セキレイ) は漢字から「背筋がピンと伸びて姿勢が美しい鳥」という意味があります。尾羽を上下に動かす姿から「石たたき」、「庭たたき」等という別名も存在する親しみ深い鳥です。



写真3 キセキレイのオス



写真4 キセキレイのメス

姿を比較するため写真3と4でオスとメスの写真を載せて見ました。繁殖期である4月~8月ではオスは喉元が黒くなって髭を生やしたようになり、体の黄色が濃くなります。繁殖期を過ぎるとメスと、同じように黄色が薄く地味な感じになります。メスは1年中地味な感じで外敵に見つかりにくいように工夫しているようです。2枚の写真をみると一目瞭然です。

また、繁殖期中のキセキレイの子育ては育児の役割分担があるようです。巣作り・産卵・抱卵・抱雛は主にメスが担当し、縄張りの

維持はオスに一任されています。ただ最も大変な雛への給餌については、オス・メスが半分ずつ担当し、巣立った後もオス・メスで分担し一人前になるまで育てます。

見つかりにくいメスが子育てを主に担当し、色味が強く目立つオスが外敵に対して威嚇し警戒するという分業体制が確立されているようですね。

### (4)日本神話と恋教鳥 (コイオシエドリ)

他にもセキレイについて調べて見ると、キセキレイを含むセキレイたちは日本人ととても関わりが深い事がわかってきました。日本書紀の記述によると、日本創世に関わった神イザナギとイザナミに恋を教えた師匠として名前が出てきます。もしかしたらセキレイがいなければ日本自体なかった? かもしれませんね。

今でも日本各地に伝承が残っていて、国生みのはじめに誕生したとされる淡路島には

鶴鴿石（セキレイセキ）がまつられており、また婚礼時の調度品につがいのセキレイの像が乗った鶴鴿台（セキレイダイ）があるのはこの神話に由来しているからだそうです。もし興味のある方は是非詳しく調べてみてください。

梅雨の時期は雨が多く、晴天の綺麗な風景を楽しみにしている登山客の方にとっては残念な季節かもしれませんが、雨の時にしか現れない素敵な景色や雨の日にこそ活発に動く動物たちもいます。

もし雨の中の登山道を登られる際は足下に十分注意を払いつつ、雨の大杉谷を楽しんでください。

**発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官**